

私にできること

二日市北小学校四年

さいとう 知世

みなさんは、しょうがいのある人に出会ったことがありますか。私はよく利用する公園で、しょうがいのある人を見かけたことがあります。

その人は、光をさえぎるめがねをかけ、赤と白のついで足元に何があるか探しながら歩いていました。視覚しょうがいのある人です。そのうち、手探りで何かを探し始め、こまっているようでした。私は声をかけようと思いました。が、勇気がでず、声をかけられませんでした。自分では見えない物がたくさんあること、きこひ、じわいじや辛いこともたくさんあると思います。それなのに、何もすることができず、私はずっともやもやしていました。

私は家に帰って、「しょうがいのある人」とけんさくしました。すると、「しょうがい者差別」の問題が取り上げられていました。しょうがいのある人の多くが、日常生活の中で差別を受けていると感じていることや、しょうく場や公きょう交通機関など様々な場所で差別をうけていると感じていることがわかりました。しょうがいのある人のことを考えた世の中になっていないのだと知り、悲しくなりました。

私は、しょうがいのある人のために世の中を変えていく必要があると思います。世の中を変えていくには、一人ひとりが意識することが大切です。私ができることは、まず今の差別のじょうたいを周りの人に伝えていくこと、そして、自分にもできることで、しょうがいのある人の力になることです。しょうがいのある人が、差別を受けることなく、安心して安全にすく

していける世の中にしたいです。

いつもの公園で、また、視覚しかくしようがいのある人を見かけました。こまっ
ている様子です。

「何かさがしているんですか。」

「ベンチをさがしているんです。」

後ろからせ中をささえ、ベンチへゆづりました。

「大じょうぶですか。」

「大じょうぶですよ。声をかけてくれてありがとうございます。」
心があたたかくなりました。